

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第二中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	「はじめに子どもありき」の理念の下、子どものための教育活動の取組を推進している。めざす学校像「一人一人が輝く活気と潤いのある学校」を踏まえ、教職員の目標を連鎖させ、組織的に取り組んでいる。臨時休校に伴う教育計画や教育活動の変更にあたっては、各教科、分掌組織が連携し対応を行うとともに、ICT機器の活用や授業改善等の取組を進めている。教職員が情報を共有し共通理解の下に教育活動が行えるように毎週、生徒指導部会、教育相談部会、運営委員会を実施している。	A	校長の考え方がよく伝わり、子供たちの学ぶ環境を第一に考えている。「はじめに子どもありき」は教職員が教育活動を行う上で根幹となる理念である。毎月の学校だよりでもこの理念を説き意識を高めている。コロナ禍の中、迅速対応し学校運営、生活を送っている。臨時休校で学習への不安が高まる中、積極的に授業の配信を行った。各教職員が、生徒1人1人に目を向け、それぞれの特性をとらえ、全体のバランスも配慮しつつ、親身に対応している。「子供たちにとってどうなのか」を常に考えて対応している。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	B	学校メールの配信を担当者が即時配信できるように運用を見直した。避難訓練は年3回実施し従来の火災や地震発生の想定に加え、台風や豪雨等による浸水想定避難訓練を実施した。また、消防署員を招聘し総合訓練も実施した。いじめ根絶の取組として、心と生活アンケート、オレンジリボンキャンペーン、人権学習、教育相談週間等に取り組み、生徒指導対応教諭を核とした教育相談体制を構築している。	A	学校メール配信をうまく活用している。夏の雷雨の時に、部活帰りの生徒の見守り対応もよかつた。情報発信の頻度が増え、状況の把握がしやすくなった。メール配信は細やかでスピーディーに配信されており、安心感がある。従来からの地震・火災に対する避難訓練に風水害に対する避難訓練が加わり、取組を充実させている。また、コロナ感染症に対してできる限りの感染拡大防止対策が実行されている。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	埼玉県学力・学習状況調査では1年(国数)、2、3年(国数英)すべてで県平均を上回る結果が得られた。南部地区学力検査(3年国数社理英、年3回)でも結果に伸びが見られている。調査結果の分析から、生徒全体としては基礎的・基本的な知識の定着が進んでいる。大型テレビを新規導入し、全ての普通教室で授業で使用する学習資料を従来よりも大きく見やすく提示することが可能となり授業でのICT活用を推進している。	A	わかる授業・できる授業・楽しい授業に向けた授業改善がなされている。臨時休校中に行った学習動画の配信は大変素晴らしい取組であった。学力調査を指標にすれば、県平均を上回っている。基礎学力は定着している。今後、ICT化が進むことにより、個人差が埋められるようなきめ細かな指導を一層充実させる必要がある。授業は、プリントを用いてわかりやすくテスト勉強や自主勉強、家庭学習に取り組みやすくなっている。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	臨時休校の際にはインターネットによる授業動画配信を学校独自で実施した。学習支援充実の取組として10名の学習支援員による授業での学習支援と放課後学習教室を実施した。市教委委嘱研究開発学校の取組では、「主体的・対話的で深い学びの実践」を研究主題とし、各教科の研究授業を実施し、授業の工夫、改善に取り組んだ。生徒アンケート「授業はわかりやすい」は97.2%、保護者アンケート「生徒の実態に基づいた授業をしている」は79.9%であり、改善の取組を継続する。	A	1学期末テストと通知表発行を9月に行うという決断は生徒の実態を最大限考慮したものと高く評価している。緊急事態宣言による休校時のインターネットを活用した動画配信の取組や、授業のわかりやすさに対する生徒のアンケート結果からも、授業への熱意がうかがわれる。動画配信の一方通行をどうフォローするかが次の課題である。放課後学習教室など、復習の機会を増やしている。個々の教職員の授業力向上が今後も必要である。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	委員会活動等、生徒が主体となる取組を推進している。朝のあいさつ運動、集会時の無言入退場、清掃時の黙勤、授業評価オール5、完全下校時刻を守る取組、各種委員会のキャンペーン等、活動することを通じて生徒に達成感を味わわせ、自尊感情を高められるよう実践している。生徒アンケート「校則などの生活のきまりを守る」98.1%、保護者アンケート「生活ルールや規律ある態度が身に付いている」93.7%であり、今後も継続的に取り組む。	A	「自治の力」による行動を常に生徒に訴え教育活動を行っている。社会規範も時代とともに変化するので柔軟な対応が求められる。より良い学校生活のため、生徒会や委員会が工夫を凝らして活動している。あいさつ、整頓、黙勤、下駄箱の靴等、中学生の「規律ある態度」をよく見かける。生徒アンケート「チャイム着席や私語・・・」の思わぬ回答が14.5%と比較的多いので改善を図る。校外での行動について、学校内の指導だけで足りるのか検討が必要である。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	学校の決まりの見直し、改善に取り組んでいる。教員、生徒会新旧役員の実態による学校の決まりの見直し、改善のための会議を開催し取組を進めているところである。熱中症対策として帽子の着用、感染拡大防止のためのジャージ・体操着着校、部活使用のTシャツ着用、防寒のための室内での防寒着着用、女子制服のスラックス導入等の見直しを進めている。毎月、生徒指導委員会を開催し、生徒の主体的活動が活性化しよう工夫している。	A	生徒の実態把握に努め、学校の決まりの見直し等に対し、会議を重ねている。男女差についての社会変化も十分考慮していく姿勢も評価できる。学校の決まりの見直しを生徒と教員で作っていくプロジェクトに期待している。このようなアクションは、自分たちの学校という意識形成にもたらす効果が大変大きい。体操着着校をはじめ、感染防止に柔軟に対応しており、夏の熱中症対策等、実情に合った改善がスピーディーに行われた。個々の教員の指導力向上は今後も必要である。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	体育委員会の取組として屋休みに校庭と体育館を開放している。各学年に用意しているクラスボールを用いて、サッカーやバレーボールなど、複数で運動を楽しんでいる様子が見られる。運動部活動は、多くの大会、試合が中止となったが意欲を保ち熱心に活動に取り組んでいる。生徒アンケートでは「部活動は楽しくやりがいがある」93.3%、保護者アンケート「体育の授業や運動部活動等の運動に意欲的に取り組んでいる」92.7%の回答が得られている。	A	休校中も体力づくりのため、土手を走り回り自主練習している姿を見かけた。立地条件を十分に生かし、運動部の活動も活発で、生徒は楽しくやりがいを感じている。練習時間や大会が制限される中でも、どの部活動も熱心に取り組んでいる。コロナ禍でなかなか体を動かす機会がない中、運動が苦手な生徒でも体育の授業はとも楽しんでいる様子である。部活動の成果を毎号の学校だより「活躍する中学生」において紹介し称えている。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	競技、種目等の特性に応じて感染対策に留意し、体育の授業や各部活動で方法や内容を工夫して活動に取り組んでいる。新体力テストは実施時期を調整し、完全実施した。記録をもとに生徒の体力における実態を把握し、授業改善に活用している。体を動かす機会を確保するため、休校中は校庭開放を行った。通常登校となったからは屋休みの校庭開放と体育館開放を実施しており、学年に関わらず多くの生徒が生きて体を動かすことができる環境を整えている。	A	運動量の確保と場の工夫、部活動の充実、食育の推進と健康教育の充実を掲げ、取り組んでいる。コロナ禍において、感染防止に留意しながら、部活動や授業においての工夫がなされている。体育祭など、感染防止対策をとりながら、体力向上を目指してよく取り組んでいた。運動不足が問題になる中、教員の工夫・努力のおかげで、体力を向上させることができている。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	回答が必要となる保護者宛通知を、文書配布に加えインターネットによる回答ができるよう連携に当たり工夫を行った。学校評価についても保護者アンケートはインターネット回答とした。日本語指導員、児童生徒支援員、近隣大学の学生ボランティア、部活動や授業の外部指導者等、多岐にわたる地域の人材を教育活動に導入している。保護者アンケートでは、「保護者や地域と連携して教育活動を行っている」86.8%であり、連携による教育力向上の取組を今後も推進する。	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、急遽募集した保護者による消毒ボランティアに多くの方が集まったことは、学校・保護者・地域の良好な関係を示している。コミュニティスクールを目指した学校地域懇談会が開かれ、地域とともにある学校の共通認識が図られた。多岐にわたる、地域の人材が導入されている。インターネットにより保護者宛の通知を確実に受け取ることができ、学校への回答もスムーズになるよう工夫している。今後の連携の在り方や方法を検討する必要がある。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	教室等の消毒作業にあたり保護者ボランティアを募ったところ、延べ164名の方に参加をいただいた。保護者と教師の各委員会やサポーターの取組など、生徒への直接的な支援や校内環境整備に尽力をいただいている。コミュニティスクール導入に向けた取り組みを開始し、学校地域懇談会を開催した。年度末には学校運営協議会準備会を計画している。保護者アンケートでは「保護者や地域は学校と協力して安全指導や健全育成に取り組んでいる」83.8%である。	B	保護者、地域の方が協力的な為、多くの大人の目があり、生徒の安全が守られている。コロナ禍にあり保護者と教師の生徒の活動はかなり制限されたが、ボランティアの消毒では多数参加があり、学校支援への意識の高さがうかがえる。学校・地域・家庭が連携した取組をより一層充実させるため、機会の確保や声掛け、啓発など、地域・保護者に向けたPRをする必要がある。コミュニティスクールが導入されることを踏まえ、黒目川の清掃など連携の充実を期待する。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満